

## 令和4年度 第3回沖縄県公共工事入札契約適正化委員会 議事概要

開催日及び場所	令和5年3月29日 県庁11階第1・2会議室	
出席者氏名	天方 徹 小西 由浩 三刀屋 淳 上原 道子 仲宗根君枝 横井 理人 田港 華子	
審議対象期間	令和4年8月1日 ~ 令和4年11月30日	
再苦情処理件数	件数 0件	
入札審議内容及び件数	建設工事	建設工事に係る測量、調査、設計及び工事監理業務
	総件数 316件	総件数 137件
①一般競争入札	163件	23件
②総合評価	68件	22件
③指名競争入札	68件	87件
④随意契約	17件	5件
委員からの意見・質問、それに対する回答	意見・質問	回答
	別紙のとおり (総質問件数16件)	別紙のとおり
委員会による意見の具申の内容	なし	
その他の意見	1者入札で高い落札率の案件が多く発生しているが、それについて問題意識を持って対応していくべきではないか。	

※抽出案件:別紙参照

令和4年度第3回 沖縄県公共工事入札契約適正化委員会  
抽出事案一覧表

1. 建設工事										
工事名	工事種別	入札方式	入札(開札)日	入札(見積)参加者数	予定価格(税込・円)	調査基準価格・最低制限価格(税込・円)	落札価格(税込・円)	落札者	落札率(%)	担当部署
① 旧東第3地区畑地かんがい施設整備工事(R4)	土木一式工事	一般競争入札	R4.8.24	1	124,031,600	113,896,754	123,750,000	株式会社 大智	99.8	農林水産部 南部農林土木事務所
② 宜野湾浄化センター第3系汚泥濃縮機械設備工事(初沈系)M2	機械器具設置工事	一般競争入札	R4.9.13	1	433,686,000	417,034,488	426,800,000	(株)クボタ・福山建設(株) 特定建設 工事共同企業体	98.4	土木建築部 下水道課
③ 宜野湾警察署新庁舎改築工事(建築2工区)	建築一式工事	総合評価方式	R4.8.5	13	896,280,000	853,960,596	870,870,000	(株)野原建設・(株)丸元建設 特定建設 工事共同企業体	97.1	土木建築部 施設建築課
④ 沖縄都市モノレール引込線PC軌道桁製作工事	土木一式工事	総合評価方式	R4.8.4	1	207,471,000	192,198,270	206,580,000	(株)富士ビー・エス 沖縄営業所	99.5	土木建築部 都市計画・モノレール課
⑤ 計装設備更新工事(那覇)(R4)	電気工事	指名競争入札	R4.9.13	5	47,421,000	44,817,076	47,300,000	(有)沖縄小堀電機	99.7	土木建築部 下水道事務所
⑥ 令和4年度 円覚寺跡三門復元整備工事	建築一式工事	随意契約	R4.9.26	1	83,683,600	—	83,644,000	金城建設	99.9	教育庁 文化財課
2. 建設工事に係る測量、調査、設計及び工事監理の業務										
業務名	業務種別	入札方式	入札(開札)日	入札(見積)参加者数	予定価格(税込・円)	調査基準価格・最低制限価格(税込・円)	落札価格(税込・円)	落札者	落札率(%)	担当部署
⑦ 令和4年度 盛土緊急対策調査測量設計業務委託	土木関係コンサル	一般競争入札	R4.9.15	7	16,016,000	12,732,281	15,950,000	株式会社 三矢コンサルタント	99.5	土木建築部 海岸防災課
⑧ 令和4年度 河川事業現場技術業務委託(その3)	土木関係コンサル	総合評価方式	R4.9.1	1	11,671,000	9,336,800	11,660,000	(株)建設技術研究所	99.9	土木建築部 南部土木事務所
⑨ 長北地区農地造成調査測量設計業務(R4-1)	土木関係コンサル	指名競争入札	R4.8.29	8	60,241,500	47,092,191	58,520,000	(株)シグマ・(株)海秀 特定建設工事 共同企業体	97.1	農林水産部 宮古農林水産振興 センター農林水産整備課

## 令和4年度第3回沖縄県公共工事入札契約適正化委員会 議事概要

意見・質問	回答
<p><b>Q 1</b>            案件④「沖縄都市モノレール引込線PC軌道桁製作工事」について            モノレールの工事を県の予算で施工する法的根拠は何か。            また、沖縄都市モノレール(株)と沖縄県の役割分担について説明してほしい。</p>	<p><b>A 1</b>            モノレールを走らせる軌道の桁や橋脚については、道路施設であるインフラ部として県が工事施工を実施している。モノレール3両化のための新車両基地や駅舎の中の営業に関わるものについては、インフラ外部として沖縄都市モノレール(株)が工事施工を実施している。            モノレール事業については、軌道法の許可を受けたうえで、「都市モノレールの整備に関する法律」等に基づき、都市計画事業として整備を行っており、その中で「沖縄県の施工するインフラ部」と「沖縄都市モノレール(株)が施工するインフラ外部」を区分けして整備を進めている。</p>
<p><b>Q 2</b>            案件④について            工事費積算の際の見積書は何社から取っているのか。その見積の平均を積算に用いているのか。</p>	<p><b>A 2</b>            8社から見積りを取り、その平均を見積に用いている。</p>
<p><b>Q 3</b>            案件②「宜野湾浄化センター第3系汚泥濃縮機械設備工事(初沈系)M22」について            見積採用方式についてと、落札率が高い理由を説明してほしい。</p>	<p><b>A 3</b>            当該工事は、汚泥を処理する機械を設置するもので、処理場に合った機械の設計から作製までの見積書を各業者から取り、その見積書を参考として予定価格を積算している。据え付けする工事費は積算基準に基づいている。機器費が高いため、設計額と入札額に差がないと考えている。</p>
<p><b>Q 4</b>            案件②について            機器メーカーごとの金額は、同じなのか。</p>	<p><b>A 4</b>            メーカーごとで金額は多少違っているが、効率など条件を示して、見積もりを取っているため、ある程度金額は決まってくると思う。</p>

**Q 5**

案件①「旧東第3地区畑地かんがい施設設備工事(R4)」について

対象業者数が172者で、応札者が1者しかいないのは、入札参加資格が厳しいのではないか、入札参加資格を検討する必要はないか。

**Q 6**

案件①について

1者入札で、99.8%と高い落札率となっていることを、どう考えているか。

また、見積もりを入手した業者と、入札した業者は同じか。

**Q 7**

案件①について

単価、工数が決まっていれば、同じ入札金額になるのではないか。どこで入札金額の差異をつけるのか。

**Q 8**

案件⑥「令和4年度円覚寺跡三門復元整備工事」について

随意契約の価格は、適正であるかをどのように判断するのか。

**Q 9**

案件⑥について

円覚寺について、県の予算で工事する根拠は何か。

**A 5**

入札参加資格は、一般競争入札で標準的な要件とされたものとなっている。当該工事は、小規模離島ということで応札者が少なくなる傾向があるため、A等級が対象であるが、特A等級を追加している。地域要件など、今後、検討できるものは検討したい。

**A 6**

土地改良事業等請負工事費算出に基づいて積算しており、これについては公表している。積算参考資料は事前に公表しているため、正確に積算できる状況にあると考えている。

また、今回の工事の単価は、県の資材単価を使っており、業者からの見積もりは使っていない。

**A 7**

直接工事費以外に共通仮設費、現場管理費、一般管理費があり、決まっている単価以外の経費がある。その部分で若干利潤額を落として入札にかけるということで差が出てくる。

今回は、1者のみの応札のため、高い落札率になっていると思われる。

**A 8**

文化財の整備については、積算基準の単価はない。

**A 9**

円覚寺は、国の史跡となっており、文化庁から補助をもらい、事業を実施している。

**Q10**

案件⑧「令和4年度河川事業現場技術業務委託（その3）」について

1者の入札となっているが、入札参加予定者はどれくらい想定されていたか。

**Q11**

案件⑧について

幅広い条件であったにもかかわらず、県外の業者1者の応札になった理由は何か。

**Q12**

案件⑧について

積算方法について教えてほしい。

また、落札率が高いことをどう考えているのか。

**Q13**

案件⑧について

沖縄県における一般競争入札で、7割、8割をきる落札率があるなかで、落札率99.99%となることについてどう考えているのか。

**A10**

入札参加資格者名簿に「トンネルかつ地質部門」として登録されているのが、県内では129者、県外が57者ある。さらに、実績として、10年間でのトンネルやボググス並びに前後の呑口、吐口、さらに類似としての河川工事の各現場技術業務を対象として求めているため、幅広い条件であったと考えている。

**A11**

本業務が非常に難しい施工管理を要する業務であったからではないかと考えている。

**A12**

現場技術業務で積算基準があり、準じて積算し、予定価格を決めている。歩掛かりについては、公開されている。見積書は徴収していない。

現場技術業務は、積算項目が少なく積算基準は公開されているため、第三者が積算してもかなり精度の高い金額で積算できると考えている。

**A13**

基本的には、適正な積算を見積できるようなスタンスでやっている。仮に見積を徴収した場合も、その歩掛かりも単価も発注の際に示している。

各業者はそれぞれの応札額、利益を削ってくるため、落札率が70%、90%という数字となる。

今回の業務についても、誰もができる積算内容となっており、利益をほとんど落とさなかったということから落札率99.99%という結果が生まれたと考えている。

**Q14**

案件⑦「令和4年度 盛土緊急対策調査測量設計業務委託」について

入札者7者は1,480万円から1,450万円の30万円の幅に収まっているが、問題はないか。

**Q15**

案件⑦について

落札率が当初より相当高くなる種の業務ということによいか。

**Q16**

案件⑦について

新しい技術を使用しているが、その業務についても積算と単価は県から公表されているのか。

**A14**

業務内容が測量業務、設計業務、地質調査業務となっている。測量業務と地質調査業務は、標準の歩掛かりがあり、設計業務は今回見積もり依頼している。今回応札した7者のうち4者は、その見積もり依頼した業者となっている。また、見積もりを8者から取り、それを平均したものを入札公告時に、県が採用した見積もり、歩掛かりとして公表している。予定価格については、入札参加者は正確に積算できるものと考えている。

**A15**

盛土緊急対策事業は令和3年度以降に新設された事業の調査業務で、経験者があまりいない。また、UAVレーザー測量、ドローンをレーザーで測量する内容になっており、ドローンの経費、レーザーで測定した電子データをスペックの高いコンピュータで処理するための電算費の経費も通常より割高となる。固定経費の方が高いので、余り利潤を下げられない側面はあったかと考えている。

**A16**

UAVの測量については、県外でかなり進んでおり、積算等は標準化されている。

以上